

巻頭言
Greeting

×

安西 幸男

Yukio Anzai

聖書宣教会 評議員

(昭和聖書教会牧師代行)

Profile

1954年香川県生まれ。聖書神学舎卒業後、岐阜県揖斐川町・揖斐キリスト教会で19年間牧会の後、堺市・昭和聖書教会にて12年間牧会。この春に定年退職し、半年間の牧師代行に。



「新型コロナでの得がたい経験」

「見よ。なんとという幸せ なんとという楽しさだろう。

兄弟たちが一つになって ともに生きることは。」(詩篇 133:1)

二月下旬以来、「コロナ」と口にしない礼拝がありません。コロナ禍の教会の経験を分かち合わせていただきます。

三月に入り会堂礼拝では全員マスクを着用、一斉に声を出すのをやめました。賛美は朗読者による歌詞朗読となり、歌詞に心を合わせるのが賛美となりました。

四月になり知事の外出自粛要請に応じ会堂の集まりを中止し全面的にネットにつながる礼拝に。礼拝を中継するのでなく、毎週事前配布の「一緒に礼拝ガイド」に添って各自同時刻に自宅で一人で行えるような礼拝をネットで一緒にするのです。オルガン前奏や交読文は一人ではできないので無しに。みことばの勧めは事前配布の週報に全文記載。祝祷は、同じ時間に一緒に礼拝している方たちの祝福を各人が祈るという形に。

礼拝開始が近くなると礼拝参加者は教会に参加を連絡。電話で、メールで、ネットのチャットで「〇〇です。今、席に着いています」「〇〇です。これから自分で礼拝します」という具合。それが礼拝受付。礼拝前の静まりの時間は礼拝参加連絡者と「やあ、〇〇さん、おはようございます!」と声を掛け合う時間に。司会者も伴奏者も説教者も祈る者もラインかスカイプでつながってそれぞれの場所で礼拝奉仕をして音声のみで一つ礼

拝をしようとしてきました。

ネットは不安定でドキドキ。途中で誰かが切れるのは日常茶飯事。切れたらあとは自分で礼拝を続けるお約束。それでも互いに今日もつながれて良かった、という思いを毎週重ねてきました。ネットでは一緒に賛美しても一緒に祈ってもタイミングがずれまくり。でも声が聞こえるのが嬉しいのです。互いの声が聞ける幸せ感! コロナ禍のおかげで知った喜びです。ネット接続トラブルで時に礼拝を一時中断して回復を待つこともあります。少しも整った礼拝でない、ハラハラの綱渡りの礼拝です。でも、何だか嬉しいのです。

音声だけのつながりですから、受付した名前を呼んで意識しあいます。礼拝の後「報告ありますか」と問いかけ、即座に届いたメール応答を読み上げますとラジオのディスクジョッキー風のつながり感に。一箇所に集まらない礼拝で印象的なのは「時」の共有感でした。場所は遠いのに今この時に一緒にいるという実感です。これは得がたい経験でした。

人に近づかないことが神様の大切な人を愛することになる中で、教会は一体これからどう宣教していけるのかと現場は思案に暮れますが、諸教会が通った得がたい経験がコロナ禍での諸教会の再派遣の備えとなりますようにと祈るものです。

No.181 Topics

- p03 新入会生
- p04-06 2019年度卒業生
- p07 学びの窓
- p08 お知らせ、証し、決算 / 予算

赤坂 泉

Izumi Akasaka
聖書宣教会 校長

あのときは御声が地を揺り動かしましたが、今は、こう約束しておられます。

「もう一度、わたしは、地だけではなく天も揺り動かす。」

このように揺り動かされない御国を受けるのですから、私たちは感謝しようではありませんか。感謝しつつ、敬虔と恐れをもって、神に喜ばれる礼拝をささげようではありませんか。

(ヘブル 12:26、28)

御手に支えられて、ここまで

神学校教育を祈り支えてくださる皆様に主に感謝し、御名をほめたたえます。感染症の影響が激しく世界を揺さぶる中にも、皆様に主の守りと平安がありますようにお祈りします。

6月には通信「号外」*という形で、学舎近況を簡潔にお伝えしましたが、前例のない経験を重ねていることは皆様と同じです。感染予防や拡大防止に細心の注意を払いながら、授業や早天祈祷会、会議や面談、チャペルの礼拝に至るまでオンラインを併用して行ってきました。教会奉仕も種々の制約に直面しています。それでも、確かな御手に支えられた学舎の働きは無事に続けられ、新入会生3名と特別研修生1名を含む24名の研修生は前期前半を終えました。

3月に卒業した9名も、祈り備えていた奉仕に加えて、いきなり感染症対応の判断や対応を求められ、主と教会に助けられてきたことでしょう。各地で奉仕する同窓生も、特に海外で奉仕する方々には様々な負担を強いられる状況が今も続いています。感染症ばかりでなく、災害や政治的な問題にも心を用いる日々です。学舎の一同、同窓諸師、日本と世界の主の民に、恵みの主の顧みと支えを祈ります。

今春は講師陣に赤城海師が加えられ、新約各書を担当していただいています。職員では倉嶋兄が今決算事務の完了をもって経理の責任を離れました。多年の奉仕に天来のねぎらいを祈り、健康の守りを祈ります。

さらなる恵みを期待して

夏の間も変則が続きました。キャラバン伝道も夏期研修講座も教会音楽夏期講習会も例年のような実施は出来ません。これも諸教会の皆様と同じようなことです。それでもこの時ならではの働きを、主にお献げしたいと思います。

例えば、学舎の拡大教育では、前期の聖書講座を急遽オンラインで提供することになり、地域に制約されない受講が可能になりました。後期も来年度もオンラインで提供します。どうぞ広くご活用ください。教会音楽の分野でも8月に対象を限定したオンラインの講習機会を提供しました。今後、継続教育でもそのような可能性を検討したいと考えています。またオンライン併用の祈祷会は、学舎内外、教会内外、国内外を結ぶダイナミックな集まりを可能にし、励まし合う(ヘブル 10:25 参照)交わりを拓けます。これも活かして行きたいと思います。

9月の感染症の状況は今では想像できませんが、8月20日には夏期調整期間を終え、10月9日までの前期後半が始まっているでしょう。どのような形式であれ、神に喜ばれる礼拝に生きる民として、私たちも、皆様も、主からの励ましをいただき、互いに励まし合って歩みを進めてまいりましょう。恵みを期待して。

*「号外」は教会宛での郵送に限らせていただいたため、情報が届かなかつた方々もあるかも知れません。宣教会のウェブサイトでお読みいただくこともできます。



左から、奥田、菅野、大條

氏名	出身教会	奉仕教会
聖書神学舎本科 [1名] <small>かんの ゆき</small> 菅野 雪	日本福音キリスト教会連合 湘南ライフタウンキリスト教会	湘南ライフタウンキリスト教会
聖書神学舎聖書科 [2名] [聖書専攻]		
<small>おおえだ えいこ</small> 大條 瑛子	日本福音キリスト教会連合	ぶどうの樹キリスト教会 浜田山キリスト教会
<small>おくだ ともこ</small> 奥田 智子	日本バプテスト連盟	松本 <small>ありがさき</small> 蟻ヶ崎キリスト教会 青梅 <small>おのめ</small> あけぼのキリスト教会

主のみことばは真実で変わらない

菅野 雪

私は、高校生の時にみことばが与えられ、献身者として歩む祈りをしました。しかし、信仰の挫折や教会生活でのつまづきを経験する中で、次第に主の召しから逃げるようになっていました。しかし、その期間にも主は、不信仰な私を見捨てることなく再び、召しに向き合うようにされました。マタイ 14:22~33 の箇所から、「不信仰によって失敗してしまったペテロに対して、最初に語られた『来なさい』ということばは変わっていない』ということを教えられ、私の状態に関わらず、絶えず響き続けていた神のみことばに気づかされました。さらに、これまでの歩みを振り返る中で、不信仰によって主の呼びかけから逃げていたことと、みことばをもってキリストのみからである教会に仕え、また整えていきたいという思いがある事を確認することができました。そしてもう一度、真実で変わらない主のみことばに応答したいと願い、聖書宣教会での学びを志しました。

神様のご計画と恵みによる

奥田 智子

私が救い主イエス様に会う前の心は、何によっても埋めることのできない大きな暗い穴のために虚しさや無力感に覆われていました。

家の事情で祖父母に育てられ、両親と一緒に暮らせないさみしさ、厳しい祖母に対して心を開けず誰も私を分かってくれない、愛してくれないと家族に対して恨んだ気持ちを持っていました。そんな心を抱え苦しんでいる中で宣教師に出会い、福音を聞く恵みをいただきました。宣教師の真実な愛と彼女の信頼している神様を信じたいと思ったのが信仰の始まりです。教会生活の中で、神様に対しての強情さを示されイエス様の十字架の贖いが私の罪のためであったことを信じました。

このような者が献身の恵みをいただき、教会を通し、宣教会での生活と学びを通しての訓練と奉仕の恵みに与ることになり、この恵みは神様のご計画と恵みによるものであることを信じ畏れをもって神様に従っていきたいです。



左から、岩崎、山谷、阿部、福井、中村、丸毛順枝、杉本、山下、丸毛雄

氏名	出身教会	奉仕先	
聖書神学舎本科 [6名]			
山 ^{やまたに} 谷 ^{ひろと} 寛 ^ろ 人 ^{にん}	馬 ^{まごめざわ} 込 ^こ 沢 ^{ざわ} キリスト教会	日本同盟基督教団	高岡福音キリスト教会
杉 ^{すぎもと} 本 ^{しん} 信 ^{のぶ}	東大和刈穂キリスト教会	日本長老教会	玉川上水キリスト教会
丸 ^{まるも} 毛 ^{ゆう} 雄 ^{ゆう}	高崎キリストチャペル	日本福音キリスト教会連合	昭 ^{しょう} 和 ^わ 町 ^{ちやう} キリスト教会
山 ^{やました} 下 ^{りやう} 亮 ^{りやう}	石 ^{しやくじい} 神 ^{じん} 井 ^い 福音教会	日本同盟基督教団	安 ^{あんじやう} 城 ^{じやう} 中央キリスト教会
阿 ^{あべ} 部 ^ま 真 ^ち 知 ^こ 子 ^こ	前橋キリスト教会	日本福音キリスト教会連合	前橋キリスト教会
岩 ^{いわさき} 崎 ^ま 互 ^{こうたろう} 太 ^{たろう} 郎 ^{らう}	川越聖書教会/ 東洋ローア・キリスト伝道教会	日本福音キリスト教会連合	東洋ローア・キリスト伝道教会
聖書神学舎聖書科 [3名]			
[教会音楽専攻]			
中 ^{なかむら} 村 ^{あきこ} 愛 ^あ 希 ^き 子 ^こ	佐賀キリスト教会	日本福音キリスト教会連合	横 ^{りよくえん} 浜 ^{へん} 緑 ^{りく} 園 ^{えん} キリスト教会
福 ^{ふくい} 井 ^{すみこ} 純 ^{すみ} 子 ^こ	玉川キリスト教会	日本バプテスト教会連合	玉川キリスト教会
丸 ^{まるも} 毛 ^{ゆうきえ} 順 ^{ゆきえ} 枝 ^え	高崎キリストチャペル	日本福音キリスト教会連合	昭 ^{しょう} 和 ^わ 町 ^{ちやう} キリスト教会

主によって整えられた特別な期間 **山谷 寛人**

聖書神学舎では、良き模範となる先生たちと出会い、牧師に求められることのレベルの高さを知り、みことばと格闘し、みことばを語ることの恐ろしさを覚え、受け入れられない多くの挫折を経験し、己の弱さを知り、召して下さった主に助けを求め、主からの助けが与えられ、召して下さった主の真実を知り、みことばの素晴らしさに感動し、主への信頼が増し加えられ、主の御名をあがめる... そのような幸いな研修生活を送らせていただきました。すべてを言い表すことはできませんが、私にとっての研修生活は「主によって整えられた特別な期間」でした。まだまだ整えられるべきところの多い者ですが、「主はあわれみ深く 情け深い。怒るのに遅く 恵み豊かである」(詩篇 103:8)と書かれている方によって整えられていくことに希望があります。主のなさることに期待して、死に至るまで忠実に仕えていきたいと願っています。

祝福に溢れた4年間

杉本 信

多くの祈りに支えていただき、祝福に溢れた4年を過ごすことができました。みことばに聞きつづけることの大切さを覚える授業や、互いに愛することの喜びを体験した奉仕教会での交わりなど、振り返れば恵みばかりです。辛い思いをした経験も、今となっては祈りがキリスト者の特権であることを教えられた機会でした。ただ主に感謝するばかりです。

卒業後もできれば、日本長老教会の牧師を目指しての訓練が続きます。遣わされる玉川上水キリスト教会にあって、祈りとみことばの奉仕に励みつつ、働き人として整えられたいと願います。私自身は弱く愚かな者であっても、全能であられ憐れみ深い主が支えてくださるのですから、喜び勇んで御前を歩んでいきます。恵みによって私たちを御民としてくださった主だけが、ほめたたえられますように。

恐れなくてよい(ルカ5:10)

丸毛 雄

不安でいっぱいだった4年前、このみことばが入会式で説教されました。入会後も様々な戦いや恐れに直面しましたが、主への喜びに満ちた4年間でした。原語からの聖書釈義、組織神学、歴史神学、実践神学... どの授業も苦戦しましたが、聖書の素晴らしさに励まされる毎日でした。また、高崎キリストチャペルや奉仕教会などから、たくさんの祈りと支えを頂きました。研修生たちとの交わりも忘れられません。そして妻と一緒に、祈りとみことばの学び、教会奉仕に集中できたことも大きな恵みです。様々なことを通して「主はまことにいつくしみ深い」ことを教えていただきました。

今でも、私は罪深い臆病者です。しかし、「恐れなくてよい」と語ってくださる主に信頼していきます。そして、みことばの宣教と祈り、教会の祝福のために、主イエスに仕えていきます。4年間ありがとうございました。

学び舎から教会へ

山下 亮

主の恵みとあわれみのゆえに、今まで守られ支えられ、学び舎を卒業する日を迎えることができました。あらためて、主と、背後において祈り支えてくださった諸教会の皆様に感謝を致します。

学び舎での学びを通して訓練されたことは、みことばを学び、みことばに聴き続け、みことばを語ることでした。4年間の学びを通して、先生方のみことばに対する姿勢から、みことばを学び続ける姿勢を教え込まれたように思います。そして、この4年間は、みことばを通して深く養われ続ける時でもありました。

いよいよ、この学び舎から、教会へと遣わされていくようにしています。みことばによって養い、恵みとあわれみによってここまで導いてくださった主が伴ってくださることが何よりの慰めです。これからも忠実にみことばを学び続け、みことばに聴き続けながら、みことばに養われ続け、みことばを語り続けて、主から委ねられた務めに励む者でありたいと願います。

みことばを知ること、神を知ること 阿部 真知子

神様が聖書宣教会に置いてくださり、研修生活を通して訓練の場を備えてくださった恵みは、毎日満ち溢れるばかりで、数え上げることはできません。ですが、この恵みを一言で表現すると神様を知ること、と言えます。

日々のみことばと祈り、聖書の学び、奉仕、交わり... この4年間の全ての時は、私が更に神様を知るために、神様が備えてくださったものです。達成した出来事や失敗した経験、人間関係における友情や摩擦、楽しい時と辛い時、喜びも悲しみも、神様はどんな時にもともにおられ、最後には神様を覚えるようにしてくださいました。

神学校にいるのだから当然のことと思われるかもしれせん。しかし、みことばを学んでいたとしても、神ではなく自らを顧みるという罪の性質はふとした時に顔を出します。本当に恐ろしいものです。

聖書に親しみ、みことばは何と言っているのかと謙遜に聴き続ける姿勢を見た日々でした。信仰者として、牧会者として。その全ては主を知るために。

主の御前に誠実を尽くす

岩崎 互太郎

4年間の研修生活は、主のあわれみと恵みに支えられた日々でありました。同時に、私は4年間を通して主の御前に誠実であるかが問われ、そうではない自分に直面させられました。生活、学び、奉仕に自分の限界を感じながら、焦るばかりで、主により頼むことが少ない者でした。そして、先生方をはじめ、家族や多くの方々に迷惑をかけてきました。その自分の有様は、「地のちりにひとしかり なにひとつとりえなし」(聖歌 522)であり、主の御用に全く役に立たない者であるという現実には直面するのは辛いことでした。しかし、主はこのよう不信仰な私をあわれんで、キリストの十字架により贖い出してくださり、召してくださいました。私に任せられた事は、ご真実なる神が全うしてくださいとであり、私はただ主の御前にへりくだるしかない者です。主の大きな愛に感謝し、主により頼み、このお方に誠実を尽くして仕え続ける者とさせていただきたいと願います。

主への信頼と祈りと感謝と賛美

中村 愛希子

聖なる主の御名を賛美します。

主の召しとあわれみにより、みことばと聖霊に導かれて、これまでの歩みのすべてが守られました。沢山の祈りに支えられ、学び・奉仕・訓練の中で、いつも主に祈り、主からの召しを確認しつつ、歩みを整えられ続けました。今もまだ途上にあり、主を求めてみことばを学び続けたいと願っています。この学び舎での日々で、キリスト者としてのあるべき姿、神である主を賛美し、主を恐れ、主に祈り、主に礼拝をお献げする事を、みことばに示され、教えられ、励まされ続けました。与えられるすべての事が、主を知り、みことばを理解し、みことばを深く味わうためであり、献身者として、主を信頼し、主に求め続ける思いが与えられました。知識も経験も何もかも乏しいこの者に、主が目を留めてくださり、みことばによって養い育ててくださった事に感謝します。これからも主に信頼し、全存在をもって、恵み深き主なる神を賛美します。

与えられた恵み

福井 純子

「歌いなさい」と主に言われ、ここに導かれてきました。正直、どんなことが待ち受けているのかその時はわからなかったと思います。実際に学びと研修生活が始まり、ただただ自分の弱さを示されました。難しいヘブル語や神学の学び、時間も体力も無い中で何をしたら良いのかさっぱりわからず戸惑う自分がいました。その時の自分は、今までの経験や知識の上に、さらに何かを得ようと必死であったと思います。しかし、もともと自分は何もない者で、ただ与えられる物を感謝して受け取るだけの者であることを教えられました。そして、その与えられた物は本当にすばらしく尊いものでした。主は真実なお方です。主はこのような者も召して用いようとしてくださいます。主の恵みと、忍耐をもって祈り支えてくださった教会と多くの方々に心から感謝致します。

感謝の詩

丸毛 順枝

聴講時代を含めた4年間を一言で表すと、「主がとうとう私を主の訓練を正面から受けられるように捕まえてくださった」です。

聖書と音楽の学びの中で、創造から終末まで歴史を導き君臨される主の愛と真実と権威を鮮やかに学び、神の愛と神のしもべ達の熱い愛の実践に触れました。しかし私は主の権威に服すことも愛することも出来ない者でした。特に「伝える」ことが課題です。

この役に立たない者を、主は御自分の十字架の血によりきよめて共にいてくださり、学びと奉仕を為させてくださいました。あわれみに感謝です。

主の訓練は、卒業を機に本格的に始まると理解しています。

主の教え全体に服し「主が命じられたすべてのことを守るように教える」(マタイ 28:20)という主の命令に服します。私にはなにもない。でも、主がともにいてくださる。「自分にできること」(マルコ 14:8)は私以上に知り導いてくださると信じます。主を賛美します。

サムエル記における疫病

津村 俊夫
Toshio Tsumura
聖書宣教会 聖書学研究所 所長

サムエル記は「疫病」で始まり(1サム5章)、「疫病」で終わる(2サム24章)。

1)ペリシテに対して(1サム5:6)― 敵を滅ぼすため。「主の手はアシュドデの人たちの上に重くのしかかり、・・・腫物で打って」(5:9, 11, 6:5, 7:13)。

2)イスラエルの民に対して(1サム12:14-15)― 神の民に対する警告のため。「もし、あなたがたが主の御声に聞き従わず、主の命令に逆らうなら、「あなたがたとあなたがたの先祖」(=神の民の全体。全家族)のうえに「主の手」が下ると警告する(12:14-15)。ここで疫病とは表現されていない。しかし神の民がその「不信仰のゆえに」(ヘブル3:15-19)、「主の手」によって、「疫病」で滅ぼされたことが申命記2:15や民数14:12, 37に記されている。

3)指導者ダビデに対して(2サム24章)― 神の民の指導者の不信の罪のさばきのため。

2サム24:13で、王ダビデは、イスラエルとユダの人口を数えたとき、神からの「さばき」として、飢饉・戦争・疫病の内一つを選ぶようにと命じられた。ダビデのどういう「罪」(17)が裁かれることになったのか。人口を数える数え方に問題があったのか、律法(出30:12)が定めるように、人口の登録にあたり「たましいの償い金」を主に納めることを怠ったからなのか。ダビデは「そそのかされて」(2サム24:1)人口を数えるようになったのではないか。なぜ、神がそこまでしてダビデの罪を糾弾しなければならなかったのか、と不思議に思う。しかも、7万人(15)の民を巻き添えにしてまでも。

ヘブル語本文を注意深く読むことによって分かることがある。1節は、殆どの聖書の翻訳が、「さて、再び【主】の怒りが、イスラエルに向かって燃え上がった。主は『さあ、イスラエルとユダの人口を数えよ』と言って、ダビデを動かして彼らに向かわせた。」(第3版)のように、途中で主語を「主の怒り」から「主」に変える。

しかし動詞は3人称・男性・単数形(英語では“he”でも“it”でもよい)。新改訳2017は「さて、再び主の怒りがイスラエルに対して燃え上がり、ダビデをそそのかして、彼らに向かわせた。」と訳す。主自らがダビデをそそのかしたのではなく、「主の怒り」がそそのかした。それは神が直接の行為者ではないことを意味する。1歴代誌21:1も「さて、サタンがイスラエルに向かって立ち上がり、・・・ダビデをそそのかした。」と、サタンが「そそのかす」の行為者であるとされている。

「なぜ」ダビデはさばかれたのかという問いに対しては、依然として明確な答えは得られないが、ダビデには神の目から判断すればさばかれなければならない「不信の罪」があった。神に信頼するよりも「兵力」(9)に頼んだのである。指導者の「罪」がこれ程までの結果を招くとすれば、指導者たる者は神の前にへりくだるほかない。主権者なる神は「もう十分だ。手を引け。」(16)と、滅びをもたらす御使いに命じられた。主はいつ、「もう十分だ。」(16)と言われるのだろうか。

○ 聖書宣教会からのお知らせ Information

○ 「オープンデイ」のお知らせ 11月7日(土)

オープンデイは、授業や礼拝に出席いただける「公開授業」の日です。今年はオンラインでの公開を予定しています。なお、入会検討の方に限り来訪可(要予約)とする予定です。時期が近づいたら聖書宣教会のWEBサイトで案内いたします。

○ 「賛美礼拝」のお知らせ 11月28日(土) 14:30

「主の御手による取り扱い」

聖書：詩篇 32篇3～4節

説教：田村 将^{（司）}

(聖書神学舎教師、朝霞聖書教会牧師)

今年はオンライン配信を用いた礼拝を検討しています。時期が近づいたら聖書宣教会のWEBサイトでご案内いたします。

○ 証し

倉嶋 文雄
Fumio Kurashima

川越聖書教会員の倉嶋文雄と申します。このたび、聖書宣教会の財務の役割を終えさせていただきました。振り返れば18年間の歳月が過ぎました。最後の年は体調の衰えと弱さを覚え、多くの方々にご心配をお掛けしました。この日を迎えることが出来ましたのは、永遠に変わらない主のご愛と、皆様の祈りに支えて頂いたからだと感謝しております。財務は数字を見て一喜一憂するのですが、キリストの血によって贖われた主の教会と献身的な方々のご献金により必要が満たされてまいりました。「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」ローマ8:28のみことばのご真実と約束の確かさを見させていただきました。今の気持ちは「感謝」の一言です。

○ 2019 年度収支決算概要 / 2020 年度収支予算概要

単位/千円

収入の部	2019年度予算	2019年度決算	2020年度予算
維持献金	28,500	30,844	28,500
指定献金(研修生)	26,000	27,786	25,000
特別指定献金	8,700	11,505	8,700
その他収入	19,110	12,530	20,110
収入の部合計	82,310	82,665	82,310
支出の部			
活動費	5,595	5,566	6,180
管理費	16,035	16,018	15,450
人件費	33,014	32,481	33,014
諸準備金繰入	8,700	11,505	8,700
その他支出	18,966	17,088	18,966
支出の部合計	82,310	82,658	82,310
収支差額	0	7	0

主の御名をあがめます。

2019年度も、日々主にある皆様方の温かいお祈りと献金のお支えをいただき心より感謝申し上げます。

今年度も、収入の部で大きな祝福を受けました。特に維持献金、奨学金指定が予算を上回りました。学んでいる研修生に大きな励みになりました。新年度予算は、念願の聖書学研究所が開設され、具体的に予算を計上しました。厳しい経済状況の中ですが必要が満たされるようお祈りいただけたら幸いです。

以上感謝をもって報告させていただきます。
(聖書宣教会財務)